

ブナの森にて

一步、足を踏み入れた瞬間に、空気が変わったのが分かった。
どう言えればいいだろう。

鏡のような水面をもつ透き通った泉に、頭のてっぺんまでそっと身を浸したような、そんな感じだろうか。周りの水を乱さないよう体を動かすことすらはばかられるような、そんな空気だった。

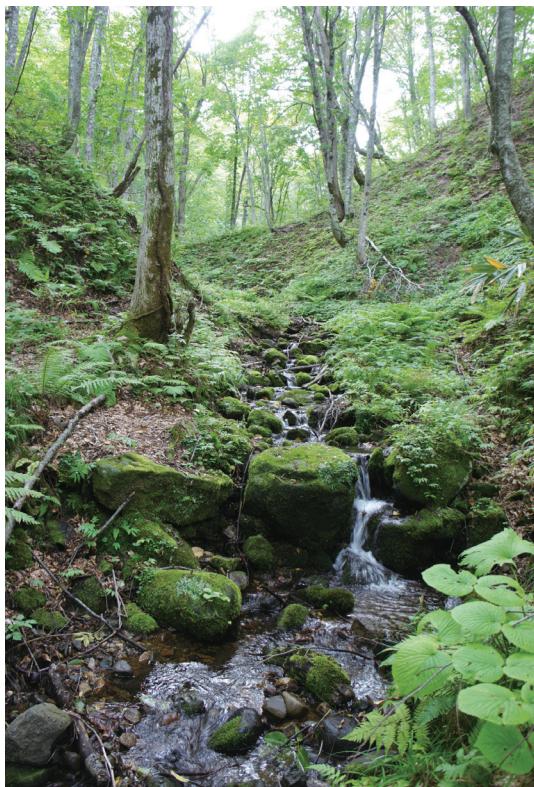
白神山地。

ブナの原生林がどこまでも続く。

いつもより大きく、いつもよりゆっくりと呼吸をしながら、森の空気に波紋を立てないように林道を歩いていく。一步一歩が、地面にやわらかく受け止められる。

大人二、三人でようやく抱えられるほどのブナの木々が、葉をいっぱいに広げながら空に向かって伸びている。その葉が落ち、いつか木々も枯れ、倒れ、土に返り、そしてそこからまた新たなブナが生えてくる。この森も、





この地面も、それを何千年も繰り返してきたのだ。

その数千年の営みを、トレッキングシューズの靴底に感じながら、木々の間を進んでいく。

足下には湧き水が、あちらこちらでくすぐったいような音を立てている。

山々に降つた雨が大地に浸み込み、岩や石や土の間を通り抜けていくうちに美しく磨かれ、やがて地表に姿を現す。水が流れているというよりも、大小さまざま透明の粒が光りながら転がっていくように見える。

しゃがみ込んで両手ですくい、口に含む。甘く冷たい光の粒たちが、ころころと音を立てるようになどを滑り落ちていく。

森を、体の内に取り込んだような気分だった。

再び歩く。

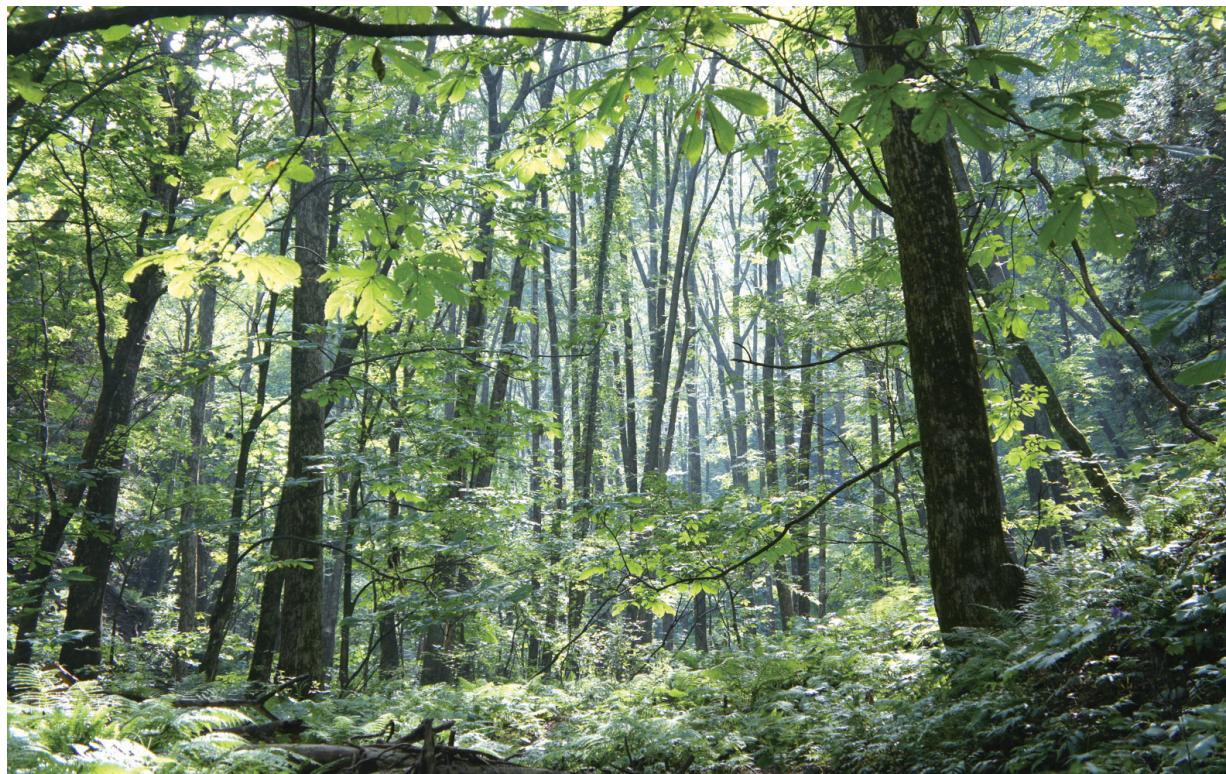
さくっ、さくっ、と地面が足を受け止める小さな音。

岩の間を湧き水が転がる音。

時折、遠くから聞こえる鳥の鳴き声。

歩いているうちに、時間の流れ方まで変わってしまったかのような、そんな感覚に陥る。いや、そうなのだ。時間とは、長針と短針の





位置や秒針の動きでとらえるものではないのだ。時間のたつのが速いとか遅いとか、それは自分という人間の側の都合の話であって、たぶん、この森にはなんの関係もないことなのだ。

数千年も、でも、数千年しか、でもない。そんな枠組みを超えたところで、この森は生きているのだ。
なんだか心地よく、そしてなぜか、少し畏れに似た感情に包まれた。

ある一本のブナが目にとまつた。

周りのブナより二回りほど大きな幹をもつ巨木^{きょ}。その二メートルほどの中さのところに、何かで刻み込まれたような大きな傷がある。傷は、幹の色との違^{ちが}いがだいぶなくなってきたはいたが、それが人の名前であることは、はつきりと読み取れた。
なぜ、あんなところに……。

ブナの森にて

理由はすぐに分かった。あそこに彫ったのではないのだ。木が成長し、それに合わせて彫られた傷もあそこまで行つたのだ。

傷が刻まれた時の高さはこれくらいだつたらうかと想像し、そしてそこから再び今の傷の位置まで目を上げていく。

さつき感じた畏れに似た感情が、また自分の中に湧いてくるのが分かった。

幹に両手を当てて見上げてみた。

その木は怒つているようには見えなかつた。

悲しんでいるようにも見えなかつた。

ただ黙つて、ただただ静かに、静かに、そこに立つていた。

ずいぶん歩いたが、森はどこまでも森だつた。少しずつ体の表面と周囲の空気との境界があいまいになつていくような、思考が緩やかに痺痺していくような、そんな感覚になつていつた。しかし、頭の芯の部分はその反対に、凜として澄んでいった。





突然、滝の落ちるような音が遠くから響いてきた。

右のほうから聞こえてくるようでもあり、後ろから
のようにも聞こえながら、音は続いている。

立ち止まって耳に意識を集中させる。

大きな音ではない。深い深い音が、体の真ん中を
細かく震わせた。

風が遠くのブナの森を吹き抜けていく音だった。
鳥肌が立った。

こんな音は聞いたことがない。

小さいのに、その音はどこまでも広がっていた。
やさしくて、どこまでもどこまでも深い音だった。

白神山地の、音。

ブナの森を吹く風が見えたような気がした。

白神山地は、青森県と秋田県にまたがる、広さおよそ一万七千ヘクタール、東京二十三区の四分の一を超える面積をもつ、ブナの原生林である。氷河時代が終わり、日本が温暖になつてきたおよそ八千年前に誕生し、以後、人間の手による影響^{えいきょう}をほとんど受けないまま現在に至つている。

古代の姿を残す世界最大級のブナの原生林として、また、その森に住まう他の動植物も含めた貴重な生態系を守り続ける地として、平成五（一九九三）年、ユネスコに世界自然遺産として登録された。^{※1}

世界遺産登録後、人の立ち入りを制限しているほか、登山道や遊歩道の設置といった新たな人為的開発をいつさい加えていない。^{※2} 今後も新たな開発が加えられる予定は恒久的^{こうきゅう}にない。

「自然」という言葉は、「おのずからそのようになる」という意味をもつ。

おのずからそのようになつた自然が、これからもおのずからそのようにあり続けるために、私たちにできることはなんだろう。

※1 現在、日本では、白神山地の他に、知床（しれどこ）・小笠原（おがさわら）諸島^{（おがさわら）}・屋久島^{（やくしま）}が、世界自然遺産に登録されている。

※2 世界遺産に指定されるには届け出が必要。また、現在歩くことができる遊歩道などは、世界遺産登録前で設置されたものだ。